

# 和歌山縣報

第八百九十一號

明治四拾二年七月九日

## ○縣令

○和歌山縣令第三十二號

和歌山縣立新宮中學校休業日ヲ本學年ニ限リ夏期休業ハ七月十六日ヨリ九月十五日マテ冬期休業ハ十二月三十一日ヨリ翌年一月三日マテトス  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

## ○訓令

○和歌山縣訓令第十九號

地方民資ノ充實並活用ニ關スル獎勵方左ノ通相定ム

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

郡	役	所
市	役	所
町	役	場

第一條 地方民資ノ充實並活用獎勵ノ爲縣ニ委員長一名委員若干名町村ニ委員若干名ヲ置ク

第二條 本委員ハ勤儉貯蓄獎勵委員ト稱スルモノトス

第三條 縣委員長ハ内務部長以テ之ニ充テ縣委員ハ縣官吏中ヨリ知事之ヲ命シ郡市委員ハ郡市吏員中ヨリ郡市長之ヲ命スヘシ但シ市委員ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ名譽職員ニ囑託スルコトヲ得

前項郡市委員ノ數ハ郡市長ニ於テ町村數及土地ノ情況ヲ參酌シ適宜定ムルモノトス

第四條 町村委員ハ町村長ノ推薦ニ依リ郡長之ヲ命シ又ハ囑託スヘシ

第五條 縣委員長ハ知事ノ命ヲ承ケ縣委員ヲ指揮監督スルモノトス

縣委員ハ縣委員長郡市員ハ郡市長ノ指揮ヲ承ケ獎勵ニ從事スルモノトス

村委員ハ町村長ノ指揮ニヨリ獎勵ニ從事スルモノトス

第六條 縣委員長ハ縣下ヲ二區ニ分チ縣委員ノ獎勵受持區域ヲ定メ郡市長ハ部内ヲ數區ニ分チ郡市委員ノ担任區域ヲ定ムルモノトス

第七條 郡市長ハ郡市委員ノ命免及其ノ担任區域ヲ知事ニ報告スヘシ

第八條 縣委員ハ委員長ニ郡市委員ハ郡市長ニ其担任ニ屬スル區域ノ狀況ヲ時々報告スヘシ

町村長ハ其ノ町村内ニ於ケル獎勵ノ顛末並其ノ狀況(規約書等アラハ寫添付ノ事)ヲ時々郡長ニ報告スヘシ

郡市長ハ其ノ部内ニ於ケル狀況(規約書等アラハ寫添付ノ事)ヲ一ヶ月毎ニ縣委員長ニ通報スヘシ但シ郡ニ在

ヲハ町村別ニ詳記スルヲ要ス

縣委員長ハ郡市長ノ通報及縣委員ノ報告ニヨリ一ヶ月毎ニ其ノ狀況ヲ知事ニ上申スヘシ  
前四項ハ此際直ニ全部ノ報告ヲ爲スモノトス

第九條 郡市長及町村長ハ郵便局長、警察官、學校職員、神職僧侶、地方有力者等ト協力シ勤儉力行ノ旨趣ヲ窺寫指示シ獎勵スヘシ

第十條 郡長ハ郡委員ノ出張日割順序ヲ定メ町村長ニ通報シ適當ノ設備ヲ爲サシムヘシ

第十一條 郡市長及町村長ハ共同貯金ノ設アルモノ又ハ貯金組合ノ設ケアルモノ、實況ヲ調査シ十分ノ督勵ヲ加フヘシ

第十二條 獎勵上特ニ注意スヘキ要点概テ左ノ如シ

一、貯金ノ獎勵ハ勤勞ノ風ヲ興シ堅實ナル志操ヲ養ヒ浮華ノ風習ヲ生セサラシムルニ最モ意ヲ須ヒ之ヲ行ハサルヘカラス故ニ副業其ノ他ノ勤勉ニヨリ得タル收得金ヲ蓄積セシムル様誘導スルコト

二、貯金ノ獎勵ハ一般産業教育ノ獎勵ト共ニ地方改良ノ一端トシテ之ヲ行フモノナルヲ以テ主トシテ勤勞ニ依ル餘資ヲ蓄積セシムルヲ期シ單ニ消極的節約ノ一方ニ偏スルカ如キ方法ハ可成之ヲ避クルコト

三、貯金ノ取扱ニ付テハ營業者ニ於テ可成其取扱手續ヲ簡便ニシ預金者ヲシテ煩累ヲ感セシメサルハ勿論尙獎勵ノ爲貯金函又ハ貯金利殖表等ノ配付其ノ他ノ方法ヲ考案シ以テ貯蓄心ノ喚起ヲ促スコト

四、共同貯金取扱方ノ確實ナルト否トハ貯金獎勵上極メテ肝要ナルヲ以テ其ノ取扱者ノ選定及

其ノ取扱振ニ付テハ特ニ注意スルヲ要ス尙貯金ノ預入及保管ニ付テハ特ニ確實ナル方法ヲ採  
ヒ苦心ノ餘ニ成レル貯蓄ヲシテ亡失ニ歸スルカ如キ憂ナカラシメ貯金者ヲシテ安シテ貯蓄  
ヲ爲サシムコトヲ要ス

五、貯金ハ最モ確實ナル方法ヲ要スルニ依リ必ス郵便貯金又ハ最モ確實ナル銀行預金ト爲スコ  
ト

六、共同貯蓄ノ方法ニ依リ市町村ノ基本財産又ハ其ノ他ノ団体ノ基金ヲ寄附セルノ事例尠カラ  
ス益々之ヲ獎勵スルコト

七、農村ニ在リテハ農産物ノ收穫時期養蠶地方ニ在テハ收購時期漁村ニ在リテハ漁獲ノ時期等  
ニ於テ其收穫高ノ幾分ヲ蓄積セシムルノ事例モアリ是等ハ適當ノ方法ナルニ付計畫ヲ盡サシ  
ムルコト

八、土木工事ニ付テハ其工費ノ地方ニ放資セラルルモノ頗ル多大ナルモノアリ又耕地整理其ノ  
他ノ起工ニ付テモ該工費ノ地方ヲ潤澤ナラシムルモノ固ヨリ尠ナシトセス隨テ之ニ使役スル  
人夫等ニ對シ規約ヲ設ケテ其ノ受クル工賃ノ内ヨリ幾分ヲ貯蓄セシムルハ嘗ニ自助心ヲ養フ  
所以ナルノミナラス風紀ノ改善上其ノ效果極メテ大ナルモノアルヘシ依テ是等ニ對シテハ請  
負人ヲ定ムル際之ヲ定メ貯蓄獎勵ヲ爲スコト

九、貯金ハ一時其ノ額ノ増加ヲ見ルモ後頻繁ニ之ヲ引出スノ弊ナキニアラス依テ貯金ノ效果ヲ  
完カラシムル爲郵便貯金ニ依ル場合ノ如キハ可成規約貯金ノ方法ニ依ラシムル等努メテ溢費  
ノ弊ナキヲ期セシムルコト

十、會社及工場ニ於テ其使役スル工女職工ニ對シ規約貯金ヲ爲サシメ尙會社及工場ヨリモ一定

ノ歩合金ヲ加ヘテ貯蓄セシムルモノアリ是等ハ最適當ノ方法ナルニ付益々其ノ普及ニ努ムルコト

十一、小學校生徒ニ於テ切手貯金又ハ共同貯金ヲ爲シ又ハ青年會ニ於テ各種ノ共同作業ニ依リ其所得ノ幾分ヲ貯蓄シ婦人會ニ於テ養蠶養雞等ヲ爲シ貯金セルノ事尙尠シトセス是等ハ益々獎勵ヲ加ヘテ其ノ普及ヲ圖ルコト

十二、地方ニ於テ御即位五十年ノ大典マテニ各種ノ方面ニ亘リ諸般ノ改良ヲ證シテ一定ノ生産額ヲ高メシコトヲ期シ已ニ其方針ト標準トヲ定メタルモノアリ此ノ如キハ好個ノ紀念施設タルト共ニ自然ニ民資ノ充實ヲ致スヘシ即チ之ニ依リテ生産シタル生産ノ増加ハ之ヲ利導シテ貯蓄セシムルコト必要ナルヘシ

十三、郵便貯金ノ獎勵ニ依リテ集注シタル資金ハ其ノ幾分ヲ地方改良事業資金ニ供給スルコトトナリタルヲ以テ克ク此趣旨ヲ徹底セシムルコト

十四、一時競フテ多額ノ貯蓄ヲ爲スモ忽ニシテ之カ拂戻ヲ爲スカ如キコトアルニ於テハ却テ貯蓄ノ效果ヲ沒了スルモノナルヲ以テ小ヲ積テ大ヲ爲スノ主義ニ依リ永遠ニ之ヲ實行セシムルコト極メテ肝要ナリ即チ貯蓄組合等ヲ設ケシメ一錢貯金又ハ日掛月掛ヲ爲サシムルカ如キ其方法タルヘシ

十五、市町村是ノ中ニハ殆ント貯蓄獎勵ノ一項ヲ加ヘサルナキモ其實行ヲ擧ケサルモノアリ努メテ簡易適切ノ方法ヲ擇ヒ其ノ實行ヲ期スルコト

十六、僻村ニ在リテハ各人個々ノ手中ニ貯存スル遊金ナキニアラス是等ハ可成貯蓄貯金其他確實ナル預金ノ方法ニ依リ其利殖ノ途ヲ講セシムルト共ニ有益ノ資源ト爲サシムルコト

十七、期間ヲ定メタル貯蓄組合ニシテ期間滿了後蓄積金ヲ配分シタル結果苦心ノ餘ニ成レル貯蓄金ヲ徒ラニ消費スルモノアリ勵メテ有用ノ資ニ充テシムルノ方法ヲ講スルコト

十八、既往ノ實績ニ徴スレハ當初事ニ熱中スルモ忽ニシテ冷却頑ミサル者アリ或ハ實行ナロニシテ實踐ヲ懈ル者アリ或ハ龐大ナル計畫ヲ立テ終ヲ全フセサル者アリ故ニ之カ弊ヲ矯正シ堅實ナル志操ヲ養成スルト同時ニ善良ノ效果ヲ收ムル様獎勵スルコト

十九、公共團沐ノ基金ハ此際悉ク郵便貯金ト爲サシムルコト(四十一年本縣訓令參照)

二十、貯金ノ獎勵ハ其ノ規模ノ大ナルヨリハ寧ロ小ニシテ不知不識ノ間ニ効果ヲ奏スルノ方法ヲ撰ムコト

廿一、各地ニ散在スル溜池ハ單ニ用水ノ供給ニ止メス養魚事業ヲ利用スルノ極メテ有益ナルモノト認ムルヲ以テ養魚ニ適スヘキ溜池ヲ調査シテ之カ施設ヲ爲シ其ノ收益ノ幾部ヲ貯蓄セシムルコト

廿二、信用組合ヲ設ケ比較的底利ノ資金ヲ供給シ一面勤儉貯蓄ヲ獎勵シ以テ資金ノ利殖ヲ圖ルト共ニ一般農民ノ利益ヲ増進スルハ最必要ナルコトニ屬ス故ニ此種組合ノ設置ヲ獎勵スルコト

廿三、近時慈善其ノ他種々好名稱ノ下ニ寄附金ヲ募集スルモノ愈多キヲ加ヘントス是等ニ對シテハ名稱ノ如何ニ拘ラズ輕々ニ其ノ勸誘ニ應スルコトナカラシムルコト

廿四、左ニ掲クル事項ハ現ニ之ヲ實行シ好良ナル成績ヲ收メタルモノアルヲ以テ土地ノ情況ニ應シ十分獎勵スルコト

1 家業ヲ勉メ分限ヲ守リ勤儉ノ利潤ト節約ノ餘財ヲ貯蓄スルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ早起晚

寢シテ業務ヲ斷ミ衣食住ハ質素ヲ旨トシ冠婚其他慶事葬式等ノ場合ニハ虛禮ニ流レヌ歳暮年始等ノ場合ニ於ケル物品ノ贈受ノ舊慣ハ之ヲ全廢シ此等勤儉ト節約トヨリ生スル金額ヲ貯蓄シタルモノ

2 青年會ヲ組織シ互ニ遊情ヲ戒メ夜間ハ各自繩ヲ絢ヒ蓆ヲ織ル等適宜ノ勞務ニ服シ製作品ハ之ヲ共同販賣シ其ノ收得ノ幾部ヲ貯蓄シタルモノ

3 共同小作ヲ爲シ其ノ收益ノ幾分ヲ貯蓄シ又共同シテ或ル事業ノ受負ヲ爲シ其ノ利益ヲ悉ク之ヲ貯蓄シタルモノ

4 部落民共同一般ノ休日ヲ利用シテ田地ヲ開墾シ其ノ得タル收益ヲ蓄積シタルモノ  
5 漁村ニ於テ貯蓄組合ヲ設ケ日々漁獲物賣上金ノ幾部ヲ割キテ之ヲ郵便官署ニ預入レタルモノ

6 學校資金ノ蓄積ト非常災害豫防費ノ積立ヲ目的トシテ本業ノ餘暇養鶏及果樹ノ栽培ヲ爲サシメ一定ノ金額ヲ蓄積シタルモノ

7 郡教育會ニ於テ兒童ニ養鶏ノ法ヲ教ヘ其純益金ヲ貯蓄セシメ以テ一面ニ於テ勤儉ノ習性ヲ爲サシムルト共ニ其ノ他ノ一面ニ於テ斯業ニ對スル趣味ヲ養成セゾトテ圖リ各町村教育會ヲ經テ各學校ニ養雞ヲ分配シ之カ飼育ニ要スル費用ハ教育會之ヲ支出シ教員ナシテ共同飼育ノ任ニ當ラシメ其ノ繁殖セル雛雞及雞卵ハ適宜兒童ニト配セルモノ

8 小學校兒童髮刈規約ヲ設ケ教師監督ノ下ニ兒童相互ニ髮刈ノ勞ヲ取リ其ノ都度三錢以上ノ貯蓄ヲ爲サシメタルモノ

9 小學校兒童ナシテ害蟲驅除ニ從事セシメ獎勵ノ爲郵便切手ヲ以テ或ル金額ヲ交付シテ貯蓄

ヲ爲セシメタルモノ

10 學校基本財産ヲ造成セムトシ村費ヲ以テ桐苗ヲ購入シ村内各戸ニ三本宛テ配付シ宅地又ハ畑地ニ栽植セシメ十二ヶ年ヲ經之ヲ伐採シ其ノ價格ノ三分ノ一ヲ栽培者ノ所得トシ三分ノ二ヲ學校基本財産トシテ蓄積シタルモノ

11 納稅組合ヲ設ケ組合員ヲシテ毎日纏綿ヒ草履又ハ草鞋ヲ造ラシメ組頭之ヲ集メ組長ニ納メ組長之ヲ賣却シテ其ノ代金ノ保管ヲ村長ニ委託シ滯納者アルトキハ村長ニ於テ便宜之ヲ以テ納稅ニ充ツルコトヲ得セシメ以テ貯金ノ獎勵ニ努メタルト共ニ滯納ノ惡習ヲ除キタルモノ  
12 貯蓄ノ事務ヲ村役場ニ委託シ貯金ハ小學校高等科生及尋常科五六學年生ヲシテ毎日曜日ニ各戸ニ就キ集金セシメ頗ル良好ナル成績ヲ收メ貯金者ノ便ヲ計リタルト同時ニ兒童ヲシテ貯蓄ノ觀念ヲ煥起シタルモノ

○和歌山縣訓令第二十號

郡役所  
市役所

明治四十年六月訓令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

○ 告 示

○和歌山縣告示第二百七號



本年六月二十七日執行縣會議員補闕選舉ノ當選者住所氏名左ノ如シ

明治四十二年七月八日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

海草郡椒村大字椒里 國中太郎

○和歌山縣告示第二百八號

青森縣取扱ニ係ル扶録處分ニ關スル指令書ニシテ請願人居所不明ノ爲交付シ能ハサル分左ノ通同縣ヨリ通知アリタルニ付本人又ハ其ノ相續人ハ請願當時ノ住所並現住所ヲ記載シ之カ受取方同縣へ申出ツヘシ

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

指令番號

氏名

指令番號

氏名

七〇四五七

安田五郎丸

七〇四〇五

藤田吉雄

一〇三八五

工藤孝吉

一一〇三七八

相場榮吉

七〇七八四

今又十郎

七〇一二二

館山松太郎

七〇〇三〇

佐藤きよ

七〇一五二

外崎雄次

六九九一八

川村龜太郎

七〇〇二八

工藤藤則

五四六九三

火山清太郎

五四六八五

連沼貞助

二一八五

成田子篤

二一九七

須藤ユカ

二二一六

大高壽久造

六六三六

高橋邦太郎代  
高橋三省

七三五五

山田源次郎

七三〇三九

島田勝胤

一一〇三六七

和田音次郎

五一四四八

前田榮三郎

○和歌山縣告示第二百九號

徳島縣取扱ニ係ル秩録處分ニ關スル指令書コシテ請願人居所不明ノ爲交付シ能ハサル分左ノ通同  
縣ヨリ通知アリタルニ付本人又ハ其ノ相續人ハ請願當時ノ住所並現住所ヲ記載シ之カ受取方同縣  
ヘ申出ツヘシ

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事

伊澤多喜男

指令番號

氏名

指令番號

氏名

九七八九九

樋口幸一

七〇八一七

馬宮策太

七三一〇

小川金四郎

七二二九一

井上ノブ

六八九二一

板東庫太郎

三〇七八

長尾敬吾

一一五〇五一

山田セイ

七〇八二四

吉崎健太郎

九七九二八

根來フミ

八六五三七

田中万吉

六八五二九

山本嘉市

七一四三三

小川泰明

七一五五九

野々村源四郎

七四七九七

矢野謙次郎

七七六七

高田頼男

六八七二五

木村サカ

七六八四  
 七四七五七  
 八六四八〇  
 六七九九〇  
 六八一六六  
 九七八九〇  
 一一五〇四八  
 九七九二四  
 六七九七四  
 六八〇五九  
 六八九〇七  
 六八七九三  
 六八五四一  
 七一二三五  
 七三六〇五  
 六八八一六  
 七七八〇

經原直太郎  
 赤澤顯雍  
 大崎庄太郎  
 河村<sub>リ</sub>由<sub>ヨ</sub>  
 高木由藏  
 外六名  
 河東正平  
 寺澤<sub>ニ</sub>末  
 山本半二  
 小杉光太郎  
 大井田<sub>クニ</sub>  
 久米隆三  
 寺井喜代次  
 岸<sub>シカ</sub>  
 松本常藏  
 鈴江<sub>薫</sub>  
 神野助作  
 吉田義實

一一五〇四四  
 七一七七八  
 六八二八二  
 六八八七一  
 七六七二  
 六八八八八  
 七一〇三三  
 三一三三  
 七一四八七  
 七七八九  
 七七九〇  
 七二〇一七  
 九九二四  
 七一三一七  
 九九五三九  
 七一一六三  
 七二四八五

木村繁樹  
 小川金四郎  
 岡田米藏  
 吉本文八  
 宮野國太郎  
 山本源七郎  
 樋口<sub>スカ</sub>  
 野口民太郎  
 下川<sub>エキ</sub>  
 板東<sub>壽</sub>  
 藤井三甫次  
 片山正吉  
 江口德三郎  
 武内朝司  
 森<sub>ツキ</sub>  
 小川増吉  
 多田増次郎

六八四七六	吉川 敏一	七四七七〇	吉見 廣藏
七一三八六	太田 由吉	七六六二〇	石堂友三郎
七七二二	山口 トヨ	六八七一〇	上松啓太郎
七一二六八	岡本 忠二	七〇九二二	高田 モト
七〇八二九	片山 ミチ	七四七三九	里見 兵一
八六三八七	笠井 唯太郎	七七三六	朝戸 テツ
七六八七	吉尾 キヨ	七一三五七	石川 チカ
六八五三六	庄野 徳一	三〇二二	鈴木 辰藏
九七八六五	大木 力	八六四〇一	梯 靜雄
七〇八三〇	蔭山 俊三	六八八九六	眞殿 小三郎
八六四四〇	近藤 三郎	三〇八五	木村 ナチ
七七五九	森 恒次郎	七一三〇四	大塩 勝
三一〇一	渡邊 タメ	三〇五〇	生野 イヒ
七〇九三九	庄野 眞一 <small>後見人</small>	八六四二二	梅岡 常一
七六五八	田中 友吉		

○和歌山縣告示第二百十號

左記漁業權ハ拋棄ニ因リ消滅シタルヲ以テ之ヲ免許漁業原簿ニ登録ス

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事

伊澤多喜男

免許年月日 明治三十八年十月二十一日

免許番號 一〇五

漁業ノ種類及名稱 出網類漁業網代網

消滅年月日 明治四十二年七月一日

漁業權者 東牟婁郡大島村 大島漁業組合

○和歌山縣告示第二百十一號

左記ノ種牡牛ハ證明書ノ有効期間滿了シタリ

明治四十二年七月九日

和歌山縣知事

伊澤多喜男

證明書有効期間滿了年月日	種類	年齢	毛色	高さ	所有者又ハ管理者住所氏名
明治四十二年六月十四日	ホルスタイン雜種	參年	黑白班	四尺二寸	海草郡宮村大字有家村井佐次郎
明治四十二年六月二十七日	和種	參年	黒毛	四尺	西牟婁郡生馬村所有者 大江榮吉
明治四十二年七月三日	雜種	四年	赤白班	四尺六寸	有出郡廣村大字廣管理者 御堂安太郎

明治四十二年七月五日 和種參年黒毛 四尺三寸五分 有田郡安部村大字坂尾 所有者 布袋馬之助

○通牒

○通牒

内一第一七五六號一

明治四十二年七月九日 内務部長 相良 步

郡市長 殿

町村役場 御中

明治四十年法律第三十四號適用ニ關シ左記ノ通り決定相成リタル旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度候  
一納税ノ告知及督促ハ之ヲ囑託スルト否トハ任意トス

○辞令

○明治四十二年六月三十日 和歌山縣立農事試験場技手ニ任ス 給月俸貳拾圓  
○明治四十二年七月三日 岩切武一郎

校長事務取扱ヲ命ス

○明治四十二年七月六日

任和歌山縣西牟婁郡書記  
給七級俸

西牟婁郡田邊尋常高等小學校訓導

宇井 健 藏

田邊中學校教諭

印 牧 順 作

○明治四十二年七月八日

知事官房文書係勤務ヲ命ス

屬 鈴木新次郎

### ○彙報

○轉任 本縣立田邊中學校長正七位古賀照彦ハ本月三日兵庫縣立洲本中學校長ニ轉任セリ

○講習會出席 有田郡長松田巳之吉及屬五十嵐吉三ハ本月十一日ヨリ内務省ニ於テ開設スル地方

改良事業講習會へ出席ノ爲上京ヲ命セラレタリ

○警察署長分署長會議 本月六日閉會セリ

○郡市勸業主任會議 本月六日閉會セリ

### ○地方行政

和歌山縣ニ於テ客月二十七日海草郡選出縣會議員ノ補闕選舉ヲ行フ

(和歌山縣)

○町村吏員ノ異動

○明治四十二年七月六日認可

西牟婁郡稻成村有給村長

中根市平

○明治四十二年七月七日認可

日高郡西内原村助役

楠山榮次郎



# ○觀象

自七月四日至七月六日氣象

(和歌山測候所觀測)

種日	前年		本年		前年		本年	
	七月四日	七月五日	七月四日	七月五日	七月六日	七月六日	七月六日	
平均氣壓	七五五耗二	七六〇耗一	七五三耗八	七五八耗一	七五五耗七	七五六耗九		
平均氣温	二二度三	二二度一	二〇度〇	二二度三	二二度一	二二度九		
最高氣温	二六度〇	二五度〇	二二度四	二二度三	二六度五	二六度五		
最低氣温	一七度一	一五度九	一九度)	二〇度五	一八度九	二〇度六		
最多風向	北東	北	南西	南西	北	北西		
平均風力	三米三	二米八	一米七	〇米九	一米七	一米三		
天氣	晴	曇	雨又曇	雨	曇微雨	曇微雨		
降水量	—	〇耗一	二耗	二七耗五	(耗〇)	〇耗〇		
記事現象	夜間降雨夕刻縣下全部ノ警戒ヲ解除ス	終日時々降雨夕刻海上風雨沿海ヲ襲ス	終日降雨	午前微雨午後五時五十分二十一秒微震	午後微雨午前十時半風雨強カレベク縣下全部ヲ警戒ス			

和歌山縣報

第八九一號

明治四十一年七月九日

(第三種郵便物認可)

一八

明治四十一年七月八日印刷  
明治四十一年七月九日發行

和歌山縣印刷局

印刷人 和歌山市北林町六番地  
印刷局

七